

泉管弦楽団

第54回 定期演奏会



2023年12月3日(日) 14:00開演 横浜市泉公会堂ホール

指揮 福井 雄一

主催 泉管弦楽団 後援 泉区役所 楽譜協力 JAOミュージックライブラリー

ご挨拶

本日は当楽団の第54回定期演奏会にご来場いただき、まことにありがとうございます。
今回プログラムの中心に据えた「未完成」、チャイコフスキー第5番は、それぞれ最初に聞いた時から誰もが、なんと美しい曲だろう！と感動し、印象づけられる曲ではないでしょうか。当団では「未完成」は17年振り、チャイコフスキー第5番は13年振りの再演です。

前回からメンバーもだいぶ入れ替わりましたが、昨年12月に続いてご指導いただく福井先生の指揮のもと、あらためてこの2つの名曲に立ち向かい、旋律のそれぞれをいかに美しくお聞かせするか、これまでから一皮むけた泉管弦楽団となるべく、団員一同日々研鑽に励んでいます。

さて最初は、ドラマチックで明るく楽しいモーツァルトの「皇帝ティートの慈悲」序曲で幕が開きます。最後までどうぞごゆっくりお楽しみ下さい。

プロフィール



指揮 福井 雄一（ふくい ゆういち）

スタジオレコーディング、オペラ、バレエ、ミュージカルの指揮者として厚い信頼を得ている。

ロシア国立サンクトペテルブルグアカデミー交響楽団、スロヴァキア室内管弦楽団など、欧州各地の主要オーケストラを指揮。マンチネリ歌劇場、ブルガス国立歌劇場など欧州の歌劇場で数々のオペラを指揮。

2007年より3年間(財)福岡県新宮町文化振興財団オペラ音楽監督・指揮者を務める。地域住民参加型公演を通じてオペラの普及に貢献。

2007年第1回ハンガリードナウ国際指揮者コンクール第3位。

1969年宮崎県出身。昭和音楽大学にてホルンと指揮を学び卒業後、渡欧。V. フェドセーエフ、F. ルイジ、G. マルク等のもとウィーン交響楽団にて指揮者としての研鑽を積む。

2005年ウィーン国立音楽大学マスタークラス指揮科修了。指揮をJ. パヌラ、M. ディットリッヒ、M. ストリンガー、紙谷一衛の各氏に、ホルンを守山光三、宮田四郎、樋口哲生の各氏に師事。（社）日本演奏連盟会員

お知らせ

団員募集中。練習は月2回、日曜日午後、緑園地域交流センター（緑園都市）ほかにて。詳細は、団HPまたは泉管弦楽団事務局（izumikangengakudan@yahoo.co.jp）まで。

次回演奏会は、2024年6月2日（日）泉公会堂、指揮・独奏 田野倉雅秋によるドヴォルザークのヴァイオリン協奏曲ほかを予定しています。

プログラム紹介

歌劇「皇帝ティートの慈悲」序曲 K. 621 モーツァルト（1756～1791）

モーツァルト晩年の作品。物語は紀元1世紀、皇帝ティート治世下のローマが舞台。皇妃の座を狙う先々代皇帝の娘が、自分以外を妃にしようとする皇帝の暗殺を企むが、妃候補が二転三転するなか、自分が候補になったことを知らずに皇帝暗殺を青年貴族に指示してしまう。あわてて実行を止めようとするが既に遅く、皇帝の宮殿は焼失。しかし皇帝は生きていて、実行犯で皇帝の友人でもある青年貴族が逮捕される。しかし彼が依頼者を漏らさず、一身に責を負おうとすることに娘は胸を打たれ、すべてを打ち明ける。事実を知った皇帝は誰も罰することなく、人々はローマの寛大さと皇帝の慈悲を讃え終わる。

交響曲第7番 口短調「未完成」D759 シューベルト（1797～1828）

1822年の作曲、1865年12月に初演。3拍子である1・2楽章が一般に演奏されるが、スケッチが残る第3楽章も3拍子であり、これが未完成の理由という説もある。第1楽章は暗く厳しい雰囲気の中、ほんの少し薄日が差すといった印象。コントラバスなどによる無気味な序奏の3つの音型は何度も顔を出し、最後の4分音符による強奏までこの3音であり、その執拗さは「運命」を思わせる。第2楽章は明るさが主だが、メランコリックな雰囲気や、暗く厳しい強奏にも支配され続ける。第1主題はヴァイオリンに、第2主題はクラリネットなどへ受け継がれ、最後は消え入るように、暗さから解放されたように終わる。

----- 休憩（15分の予定） -----

交響曲第5番 木短調 作品64 チャイコフスキー（1840～1893）

1888年5月に作曲に着手し、大曲としては3ヵ月ほどという短期間で完成している。同年11月にサンクトペテルブルクで、作曲者自身の指揮により初演された。聴衆の大きな喝采を受けたものの、批評家の評価は厳しいものだった。もともと作曲者自身、この曲の出来栄に不満があったのだが、国外を含むその後の演奏会でも好評を得たことにより、自信を取り戻して行ったのである。作曲者48歳の作品。（演奏時間は約45分。）

第1楽章は、クラリネットによる暗い旋律で始まる。この主題は「運命の主題」として全曲を通して、様々に様相を変えながら用いられていく。第2楽章は、独奏ホルンの吹く甘美な息の長い主題と、これを慰めるようなオーボエによる副主題が、極めて印象深い。第3楽章では、通常のスケルツォの代わりに、優美なワルツが置かれており、バレエ音楽の大家らしい試みである。第4楽章は、序奏で「運命の主題」が長調に転じて荘重に示される。闘争的な展開を経て、最後は第1楽章の第1主題が高らかに響き渡り、劇的に曲を締め括る。（Centre Trombone）

出演者等名簿

Concert master・・・中村 岳志

Violin

伊藤 雅美
大関 麻代
大塚 浩二
五味 晶子
柴田 一徳
鈴木 治
田中 京子
土屋亜紀子
土門 純子
中川真由美
中村 岳志
根本 明德

濱崎美加子
浜田 光江
福井 恭子
本多 きみ
松島 一匡
守口 徹
若松由利子
Viola
大橋 悦子
加藤 敬子
清家 匡
富田 葉子
土門 洋

内記 綾子
平塚 研之
平塚 貴子
Violoncello
江原 聡子
長田 和彦
春日 彩子
加藤 律美
栗山 孝秋
黒木 恵子
柴田真紀子
谷川 昭

Contrabass
伊東 功一
内田 正弘
大沢 陽子
杉 文一
Flute
成見 正明
西原 清美
山本 美樹
Oboe
江尻 佳代
田中 崇行

Clarinet
森田真由美
R. ケラー
Bassoon
小野亜希子
土屋 友紀
原田ともみ
Horn
白井 由梨
鹿島 航
片山 岳夫
瀬田 雅之
中根 薫

前田 祥博
Trumpet
木村 晃
小寺 佑奈
原 毅
Trombone
小島 勉
松山 隆之
吉田 智生
Tuba
阿部 建一
Percussion
鱈沢 凜